

第60回全日本野菜品種審査会 「キャベツの部」が開催されました

野菜作物研究部

平成21年5月11日、当センターで（社）日本種苗協会主催の第60回全日本野菜品種審査会「キャベツ（秋まき初夏どり）」の部が開催されました。これは全国の種苗会社で育成されている野菜について、栽培や収穫物の特性を競う審査会です。

キャベツには、みずみずしくて柔らかく生食用に向く「春系」と、硬くて重量感があり加熱しても煮崩れしない業務加工用に向く「寒玉系」があります。

近年、加工業務用野菜需要が高まっていることもあり、今回は寒玉系キャベツ13系統が種苗会社から寄せられ、審査会が行われました。

平成20年10月17日に種子を播き、11月21日に畝間60cm、株間35cmで畑に植えた後、約6ヶ月間栽培管理をしました。栽培期間中は平年より気温が高く、降水量も多かったため、順調に生育しました。

審査は収穫前の外観及び調製後の収穫物について行われました。その結果、入賞した系統は株の揃いが良好で、収穫適期が長く、病気に強く重量感のあるものが選ばれました。



1等特「YR5068」

審査結果

順位	育成者名	品種・系統名
1等特	(株)増田採種場	YR5068
2等	(株)日本農林社	ノウリン交配 さつき女王
3等	カネコ種苗(株)	カネコ交配 KA796
3等	(株)カイヤ採種場	カイヤ交配 天徳



審査会の様子

根域制御栽培により ヒマワリ切り花のボリュームを調節できます

果樹花き研究部

アレンジや花びんで楽しめるキュートな「ヒマワリ」が人気です。大きくなってしまいがちなヒマワリをコンパクトに簡単に栽培する方法を検討しました。

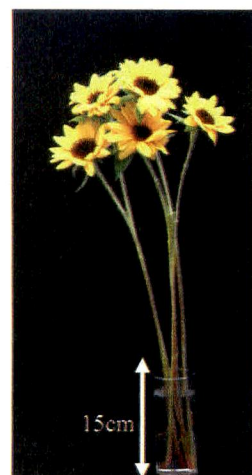
あらかじめ緩効性被覆肥料を混ぜた用土を3号ポットに詰めて『サンリッチマンゴー50』を栽培しました。なお土が少なく乾きやすいので、簡単なプールを作ってタイマーで水を給水・排水させるよう水やりを工夫しました。

その結果、ポットサイズを変えたり肥料の量を変えることでボリュームを調節することができました。肥料の量で切り花の重さは大きく変わりますが、長さや花の大きさは、重さほど影響を受けません。

5月から9月中旬播種まで無加温で栽培することができます。また、施肥量が同じでも‘サンリッチレモン’などの早生品種ではボリュームが小さくなります。

表 播種日による切り花のボリューム(‘サンリッチマンゴー50’)

播種日 ²	切り花長(cm)	切り花重(g)	花径(cm)	花茎径(mm)
5月23日	111	38	7.9	3.7
6月6日	103	30	7.7	3.1
6月27日	106	37	8.6	3.4
7月4日	112	41	8.2	3.6
7月18日	101	31	7.1	3.4
8月1日	106	35	7.8	3.5
8月15日	81	29	7.4	3.4
8月29日	76	28	8.0	3.6
9月12日	70	23	7.7	3.6



切り花(サンリッチマンゴー50)



花(サンリッチマンゴー50)

²2007年、3号ポット栽培、用土1L当たりロング424-70、重焼リン、苦土石灰を各2g混和